



創世会
山本裕三

子どもたちの「学びの保障」をどのように守っていくのか

Q コロナ禍で開催が危ぶまれる小学校のスポーツ少年団活動、クラブ活動の市内大会、中学校の中体連に替わる大会の開催検討が必要である。

また、休校による子どもたちの学びに差が出ないように、学習支援の検討が必要と考えるが見解を伺う。

子どもたちの活動と学びの支援に努める

A スポーツ少年団などの活動は、関係団体と連携して支援していきます。また、中体連の代替の試合などの安全な運営を支援していきます。

子どもたちの学びに差が出ないように、課題の提示と把握、動画配信などを行いました。また、夏季休業の短縮により、授業日数

を確保しました。学校再開後は、個に応じた支援に努めています。

小中学校へのタブレット端末導入および新型コロナウイルス感染症第2波に備えて

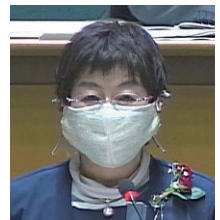
Q 小中学校の児童・生徒一人一台のタブレット導入の方針が出された。何よりも大事なことは、子どもたちが使いやすく先生方にも負担が少ない機種を選定をすることである。導入後、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、再び臨時休校となった場合にはオンライン授業等を行うのか伺う。

小中学校の児童・生徒一人一台のタブレット導入の方針が出された。何よりも大事なことは、子どもたちが使いやすく先生方にも負担が少ない機種を選定をすることである。導入後、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、再び臨時休校となった場合にはオンライン授業等を行うのか伺う。



オンライン授業等の課題解決に取り組む

A 休校中は、動画配信、学習支援システムによるオンライン学習を行いました。ネット環境が整っていない家庭があるなどの課題がありますので、全ての子どもたちが平等にオンライン授業を受けられるよう、課題解決に取り組めます。



日本共産党
勝川志保子

ポストコロナを見据え、市の計画の見直しを

Q 市の総合計画、現在策定中の公共施設再配置計画・学校再編計画、工業団地の造成、中小企業振興計画、中心市街地活性化基本計画など、ポストコロナを見据えて、立ち止まり、計画の見直しをするべきではないか。



客足が戻らない駅前

市の将来を見据えた総合計画等の見直しを検討していく

A 新型コロナウイルス感染症に伴う社会情勢の変化や、市民生活、産業等への影響を分

析し、ポストコロナの新しい時代を視野に、今後のまちづくりを進めていく必要があると考えます。

調査に基づく新たな支援施策は、財源に基金の充当も

Q 新型コロナウイルス感染症の影響をしっかりと調査の上、ふるさと応援基金の市長裁量分なども充当して、新たな支援策の創設を。国の支援制度は周知をしつつ行い、確実に市民の元に支援を。

国の補助金などの財源を活用、国の制度は市民にわかりやすく周知していく

A 新型コロナウイルス感染症対策については、国の補助金や地方創生交付金などの財源を活用する考えです。さらに財源確保の必要性があれば、ふるさと応援基金の活用も検討していきます。

国の支援制度については、市民にできるだけわかりやすく周知して、活用いただけるよう努めていきます。